



2013 年度当初予算など 85 議案を可決 2 月定例県議会 障害者施設の受注拡大を求める 調達方針を策定 知事答弁

2 月定例県議会が、2 月 22 日から 3 月 19 日までの 26 日間行われ、6561 億 8300 万円の 2013 年度一般会計当初予算案など執行部提案の 81 件、県飲酒運転を許さない社会環境づくり条例案など委員会・議員発議 4 件の計 85 議案を可決し、閉会しました。

2 月議会での私の質問機会はありませんでしたが、公明党岡山県議団の代表質問で、私が所属する環境文化保健福祉委員会に関する質問を担当しました。

私が担当した質問内容は以下の通りです。

スポーツ施策

1. おかやまマラソン (仮称)

(1) 今後の取り組み

おかやまマラソンについては、知事も就任後あらためて検討され、開催を決意された。総社市長からの中止要請などの経過は県民の関心事にもなっているが、今後、どのように取り組むのか。

→ これまでには色々な経緯があり、県議会において様々な意見を

いただいている。まずは、県議会をはじめ、関係者から意見を十分伺いながら、丁寧に検討したい。(知事)

(2) 魅力づくり

おかやまマラソンは、走る人、応援する人、ボランティアの人、関連イベントに出演する人と、一人一人が主役の「岡山が一つになる日」だ。岡山らしいコンテンツが豊富で、魅力あるものにすることが成功のカギと考えるが、どうか。

→ お話のとおり岡山らしいコンテンツは重要と考えており、コース設定や関連イベントなどを通じて、岡山ならではの魅力を全国に向けて発信できるような取り組みを検討したい。(知事)

2. トップクラブチームの支援

(1) 今後の取り組み

美作市から要望がある美作ラグビー・サッカー場のバリアフリー化、観客席の拡充等の改修についてどう対応するのか。

→ 昨年度から今年度に向け、障害のある人や高齢者にも配慮した多目的トイレの新設や、バックスタンドの安全対策として転落防止柵

の設置、また、人工芝グラウンドの芝張替等を行い、岡山湯郷ベルの支援にも役立っていると考えている。改修等は今後、優先度・緊急度を勘案しながら検討したい。(知事)

(2) FC 高梁吉備国際大学シャルム

2013 年シーズンから、なでしこリーグ入りする FC 高梁吉備国際大学シャルムへの支援は、どうか。

→ 活動の本拠地となる高梁市内にはホームゲームの開催基準を満たす観客席千席以上の天然芝のスタジアムがないため、当面、笠岡陸上競技場等の県営 4 施設を使用できるよう便宜を図っている。今後、施設使用料等の減免や、ホームゲームを盛り上げる県民応援デーの実施、県広報媒体を活用して選手やチームの活動を PR するなど、様々な支援を検討したい。(知事)

障害者優先調達推進法への対応

障害者優先調達推進法の 4 月からの施行に伴い、どう対応するのか。また、具体的な調達方針の策定はどうなっているのか。

→ 県では、予算の適正な執行に

配慮しつつ、関係部局が連携し、障害者就労施設等からの優先調達に全庁的に取り組むとともに、県内の市町村等へ適切な助言を行うほか、施設等に対して一層の情報提供を促すなど、受注機会の拡大を図る。また、調達方針の策定は、これまで国や他県の動向にも留意しながら、県内の施設等が取り扱う品目の情報収集や関係団体の意向把握などを行っており、今後、優先調達の対象とすべき物品や就労継続支援施設をはじめとする調達先など、策定に向けた具体的な検討を進める。
(知事)

医療等

1. 救急電話相談事業の創設

近年、救急車出動の依頼が多く現場到着時間が長くなっている。年齢を問わず相談できる救急電話相談事業の創設が考えられるが、小児救急医療電話相談事業（#8000）の拡充という形など創設に向けた検討ができないか。

→ 昨年度、本県の救急医療や消防の関係者で構成する救急搬送体制連絡協議会で、この問題を検討いただき、その導入効果等を確認するため、香川県や山形県など先進県の実施状況や国の動きを、しばらくの

間、見守ることとされた。引き続き、先進県の実施状況等の調査を行うとともに、国における議論の動向を注視しながら、検討を行いたい。

(知事)

2. 小児医療費公費負担制度

小児医療費公費負担制度の県の補助率は、岡山市はゼロ、倉敷市は6分の1となっているが、他の市町村と同様に2分の1に戻すべきではないか。両市民とも等しく岡山県民であるので、他県の状況も勘案し、新知事就任のこの際、考えを伺いたい。

→ 平成9年度の行財政改革大綱により、財政力に応じた補助率を導入し、岡山市及び倉敷市は、平成10年度から6分の1としている。その後、岡山市は、政令市移行に伴い、平成24年度から補助対象外とした。また、倉敷市は、平成13年10月から現物給付化に伴う経費負担や事務量増加に配慮し、激変緩和措置として本則の6分の1を5分の1としてきたが、県の厳しい財政状況から、来年度から本則の6分の1に戻すこととし、倉敷市と協議をしてきた。本制度を持続可能なものとするためには、現在の方針を堅持する必要があり、理解いただきたい。(知事)

来年度予算で要望書を提出 —党岡山県議団—

公明党岡山県議団（景山貢明団長）は2月8日、県庁で伊原木隆太知事と会い、2013年度予算編成に関する要望書を手渡しました。

席上、景山団長は「めりはりのある予算編成が県民的課題として望まれる」と強調。その上で（1）水島コンビナートの防災対策強化（2）救急医療電話相談（#7119）の創設（3）へき地の診療体制の強化（4）病院や診療所以外の事業者に訪問リハビリテーション事業所の開設を認める特区の申請（5）公共のインフラや施設を管理する長期修繕計画推進室の設置—など、160項目の推進を求めました。

伊原木知事は、前向きに取り組む姿勢を示しました。



ささい茂智 “プロフィール”



昭和38年10月13日 総社市生まれ（49歳）

【学歴】昭和57年岡山県立総社高等学校、昭和61年創価大学経済学部卒

【職歴】昭和61年岡山県農業協同組合中央会、平成16年参議院議員谷合正明公設秘書、平成23年岡山県議会議員初当選（岡山市中区選挙区）

【議会】環境文化保健福祉委員会委員、防災・環境対策・新エネルギー特別委員会委員

【家族】妻、一男一女、母、妹の6人

【座右の銘】初志貫徹

【趣味】スポーツ（ジョギング、軟式野球）